

ジーテクトの経営資本

事業活動の源泉である6つの資本は、ジーテクトの企業活動を通して強化され、企業価値となります。そしてこの創出された価値は再び資本として投入され、増強し、さらなる価値創造につながっていきます。当社ではその資本について以下のように考えています。

	指標	重要性		強み／差別化	資本の強化ポイント	中長期の目標・戦略
 財務資本	- 株主資本：1,488億円 - 有利子負債：399億円 - 総資産：3,041億円 - 自己資本：1,917億円 - 当期純利益：132億円	企業価値向上および事業環境の激変とリスクに備えた強固な財務体質を維持し、果敢な成長投資と株主還元継続のため、重要な資本です。		- 高水準な自己資本比率 - R&I格付「A-」4年連続取得 11年連続増配の株主還元 - 堅実でリスク対応ができる財務体質	成長投資と株主還元の原資となるキャッシュの創出力強化	- 売上高：2025年度3,500億円、2030年度4,000億円 - 営業利益：2025年度180億円、2030年度280億円 - ROE：2025年度8.0%、2030年度10.0%
 人的資本	- 従業員数：8,330名 - 女性役職者比率：4.9%（国内） 1人当たりの研修費：4万円（国内）	多種多様なスキルを持った従業員が企業価値向上に向け、日々様々な業務を行っています。資格取得支援や語学支援を実施するなど、育成にも重点を置いています。当社の価値は従業員により形成されているため、一人ひとりの経験・知識・モチベーションである人的資本は重要な資本です。		- 幅広く活躍できる場を用意し、より良く働くための柔軟な制度を充実 - 一人ひとりが制度を利用できるよう周知を徹底 - キャリア開発の支援	多様な人財が活躍できるための施策	- 性別に関わらず活躍できる職場 - 女性役職者比率：2028年1.5倍※2022年度比 - 様々な分野、経験、知見を持っている人財の登用
 製造資本	- グローバルな生産／営業体制 - 設備投資額：121億円	当社は保有する設備により事業活動を行っています。創業以来、生産現場と生産技術が一体となって積み上げてきた技術力である製造資本は重要な資本です。また、近年では画像分析技術などの先進技術を取り入れ、生産ラインの省人化や無人化を行っています。		12か国28工場3S&E 1R&D 1LAB - リサーチ拠点による現地最新トレンドの情報収集 - メンテナンスチームによる設備の保守保全 - 生産現場と生産技術の技術共創によるライン構築 - ノウハウの伝承	ニーズに追従した生産能力増強 中部・南沙の2新工場 群馬・イギリス能力拡張	- スマートファクトリーの実現 - 画像技術を取り入れた生産工程の省人/無人化 - カメラ検査やレーザースキャナー検査を取り入れた品質保証の自動化、トレサビリティ管理 - EV対応による材料変革に向けた接合応用技術の確立 - 環境効率の高い生産現場の実現 - グループネットワークを生かしたリスクマネジメントの実践
 知的資本	- 保有特許件数：58件 - 研究開発人員：44名 - 研究開発費：31億円	環境・軽量化の観点で重要となるアルミの成形、車体の安全性能に係るホットスタンプ・ハイテン材の成形技術等をはじめとした、新たな技術開発、生産工程における改善など様々な技術はジーテクトにとって重要であり、これらの知的資本は当社を支える重要な資本です。		- 知財専門部署を設置、グローバル体制での知財創出と特許クリアランス調査の実施 - IPランドスケープを活用し、事業の企画や研究開発の源流に入り込んだ知的財産活動 - 事業化(量産化)を遂行する技術力と各段階で創出された知的財産の保護 - 長年の研究開発で培った自動車メーカーと肩を並べる車体構造解析技術力および提案力	- 大型一体化などのトレンドに応える特許出願 - 業務を根本から変える（DX）過程で生まれた管理手法・ビジネスモデルの誕生と、秘匿化・特許化による保護	- さらなるIPランドスケープの活用 - あるべき姿からバックキャストした知的財産権の創出と保護 - 次世代車体を見据えた、お客様ニーズに応える製品や構造の商品化 - 新たな管理手法・ビジネスモデルの確立と収益化
 自然資本	- 水使用量:382千㎡ - 再生可能エネルギー使用比率：36%	企業活動を行うにあたり、自然資本は必要不可欠です。当社では、自然豊かな地球を守るために自然資本は重要であると考え、グローバルで法令を遵守し、環境汚染の無いよう企業活動を行っています。		- 環境経営の実践 - 太陽光発電をグローバルで実施 - 再生可能エネルギーを導入し、限りある資源を使用せずに企業活動を遂行 - 環境専門部署によるグローバルマネジメント - 生物多様性ボランティアの実施	- エネルギー使用量の削減 - 太陽光発電による創エネ - グリーンマテリアルの利用	- CO₂排出量Scope1,2 2030年度50%削減 2040年度100%削減 - CO₂排出量Scope1,2,3 2050年度カーボンニュートラルの実現
 社会関係資本	- 協働するサプライヤー - ビジネスパートナー - 様々なステークホルダー	当社の価値創造において、取引先、サプライヤー、従業員、地域住民、投資家など全てのステークホルダーとの信頼関係である社会関係資本は重要な資本です。		- グローバルでお客様より様々な表彰受賞（品質、コスト、デリバリー、サステナビリティなど） - 各地域での社会貢献活動の実施 - 株主工場見学会等による株主様との対話の機会 - DOE：2030年度3.0%目標 配当性向：30%目標	お客様、材料メーカーとの協働による価値の共創	様々なステークホルダーと良好な関係を維持し、良き企業市民として事業活動を継続し社会と共に発展を目指す

※指標は2023年度の実績を記載しています。